

からん日しておはしまさせ給へかし、たゞ思事はいとなめげにふしながら御覽せん事を思ふ  
 なり、さらばよき日してとのたまはず、この月〇萬壽〇月〇廿五日よろしき日なれば、その日行幸の  
 御用意あり、東宮の行啓はおなじ日あるべけれど、心あはたゞしかるべければ、おなじ月の廿八  
 日とさだめさせ給、さてその日になりて、たつるときはかりに行幸あり、昨日御ぐしなど、そらせ  
 給て、御けさころもなご奉らせ給て、世のつねの御有さまにて、御脇足におしかゝりておはしま  
 す、うへいといみじうあはれに見たてまつらせ給て、せきもとゞめずなかせ給ふ、あさましうあ  
 らぬひとにはそらせ給へる御ありさま、哀にかなしく心うく見たてまつらせ給、さてなに事を  
 かおぼしめすこととはあるときこえさせ給へば、いまはこのよにすべて思ふ事候はず、世中  
 におほやけの御うしろみつかうまつりたる人々おほかる中に、あがりてもかばかりさいはいひ  
 あり、すべき事のかぎりつかうまつりたる人さぶらはす侍、まづはおほやけのおほぢやなどこ  
 そはかやうにて候に、まだかゝるをりの行幸候はず、ちゝみか母ぎさきの御事にこそは候め  
 れ、それすらさしもあらぬたゞひとあまたさぶらふ、まづちかうは三條院六月にくらゐにつ  
 かせ給て、十月七日冷泉院の御心ちおもらせ給し、行幸あるべくおほせられしかど、諸卿のさだ  
 めに、なほ御ものゝけのいとおそろしうおはしますよし申侍しかば、行幸候はずなりにきなど、  
 いとさはやかに申つゞけさせ給へば、此御心地はちからなげさのいみじきにこそあんめれ、御  
 心ちはゆめにかはらせ給ことなし、あはれやめたてまつらばやとおぼすにいとかなしうて、お  
 ぼさんまゝの事の給へと返々申させ給へば、すべて思事候はず、世はじまりてのち、この行幸こ  
 そはたゞめしに候めれ、これよりほかの事は何事かは、たゞしこの御堂の事つかうまつりつるを  
 のことをなんひとつの事をせんと思ひたまへつると申させ給へば、いとやすき事なりとて、  
 關白殿のかみの家司因幡前司ちかたゞをば、よりあきらがかはりに美濃になさせ給、しもの家